

第33回川崎市文化芸術振興会議（摘録）

- 1 会議名 川崎市文化芸術振興会議
- 2 日時 平成26年5月29日（木）
午後2時00分～午後4時00分
- 3 場所 麻生区役所 第二会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 澤井委員（議長）、猪口委員、小泉委員、城谷委員、高田委員
野畑委員、渡辺委員
 - (2) 事務局 市民・こども局市民文化室
大坪担当課長、石床担当係長
 - (3) 事業関係者 川崎市アートセンター 関職員、藤田職員
市民・こども局市民文化室 中山担当課長
- 5 議題
 - (1) 芸術のまち人材育成事業ヒアリング
 - (2) しあわせを呼ぶコンサート 提言内容について
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0名

【審議内容】

事務局 委員過半数の出席により、会議が成立した旨を確認。

議題 1

澤井議長 それでは、議題1の「芸術のまち人材育成事業」について担当部署から概要の説明をお願いしたい。

中山課長 劇場法が成立し、劇場の機能として、従来の場所貸し中心の運営ではなく、劇場自らが実演芸術を発信していくことや劇場による人材育成が求められている。また、第2期文化芸術振興計画においても「人材育成と協働による文化芸術の振興」が基本目標の一つとして掲げられている。こうした劇場に求められる新たな役割に対応する事業として芸術のまち人材育成事業を実施している。事業は、アート講座としんゆりシアター事業の二つの事業から成り立っている。これらは元々、アートセンターの指定管理事業として行なっていた事業であるが、平成24年度からは文

化庁の補助金を活用し、事業内容の拡充を行なっている。

澤井議長

それでは、内容について質疑に入りたい。

私から、確認だが、文化庁の補助は26年度もついているのか。

中山課長

26年度は採択されている。ただし、補助金を申請する自治体が増えており、27年度以降がどうなるかはまだわからない。

高田委員

アート講座自体の目指している内容がいまいちはっきり見えないように感じるのだが、どう考えているのか。また、「アート講座」「アートマネジメント講座」或いは、「アートコーディネート講座」と表現がまちまちだが、行政サイドの“狙い”が絞り切れていない印象を受けるが、如何？

中山課長

地域の文化芸術の支え手を育てたいと考えている。一つには、地域の芸術祭であるアルテリッカしんゆりのボランティアに繋げていきたいという思いがあるが、もう一つ、様々な舞台芸術の魅力に触れることで鑑賞者を育てることにより、地域で循環するような形になることを目標と考えている。

関職員

芸術活動は、演じ手、作り手、支え手等で成り立っているが、支え手を育てる事業として行なっている。発展していけば、先には「アートマネジメント」のものもあるかもしれないが、現状はボランティアの入り口、鑑賞者の育成というところに力点を置いている。なお、もう一つ付け加えると、ボランティアに登録された方々には、もう一歩進んだ専門的な内容でボランティア向けの講習会を行なっている。

澤井議長

個々の内容は充実した講座であったと思う。一方で、目的が欲張りな面もあり、ボランティアを育てたいのであれば、サイトウ記念の方の講座のような内容がもう少し必要なようにも感じた。ただ、今の話ではボランティア向けには別途、講座が用意されているということであり、それはそれで一つの方法かと考える。

関職員

鑑賞者向けの講座とボランティア向けの講座のバランスについては、毎回議論になるところであり、今日いただいた意見等も今後の講座の設定の参考にしていきたい。

猪口委員

事業の趣旨として、地域におられる多くの優秀な方々に参加していただき、能力を活用していきたいと聞いていたが

関職員

まさに、そのとおりの趣旨で行なっている。講座の後に続くアルテリッカのボランティアについても、最初は事務局の指示どおりに行なうだけであったが、今年度からは色々な事業についてグループ化され、自立的に動き出すようになってきた。その方々が、アート講座においても運営や受付、司会等に携わっていただいている。

猪口委員

それを踏まえて、市に聞きたいのだが、こういった事業の市内での水平展開は考えているのか。

事務局

事例として進んでいるのは新百合ヶ丘周辺地域であるが、例えばモントルー・ジャズ・フェスティバルのように、ジャズ講座の参加者からボランティアに繋げ

て行くような取組は他地区でも行い始めている。始めから全市で同じように展開することは難しいと思われるが、人材育成の先駆的な事業としてノウハウ等を活用していくことはできると考えている。

高田委員 ボランティアに参加する実数はどのぐらいか。

関職員 アルテリッカ 2014 で活動したアルテリッカ アートボランティアの実数は、105名、登録人数は、約110名であった。毎年30名ぐらいがアート講座から登録されている。

澤井議長 劇団わが町の『夢見る人』を見させていただいた。素晴らしい内容であり、地域の演劇の担い手が生まれることは大変喜ばしい。一方で、今後のマネジメント等については大変だと感じた。劇団員はどこの所属という形になるのか。法人化等の計画はあるか。

藤田職員 アートセンターの小劇場を拠点として活動している市民劇団であるが、所属という形ではなく、何人かの世話人や劇団員たちが、自分たちでホームページを立ち上げたりしており、アートセンター側の制作スタッフと協力しながら活動している。法人化等については、現在はまだ考えていない。

澤井議長 地域を題材とした内容は意義があると思われ、良い取り組みかと思う。経営基盤をしっかりとさせていただき、安定して活動できる方法を考えていただければと思う。

高田委員 『ロック ザ フィガロ』等はプロによるものか

藤田職員 プロの役者による公演である。

高田委員 入場者について、『ロック ザ フィガロ』等は非常に高いが、劇団わが町の『夢見る人』が67～8%台と他に比べると低い数字になっている。

アート講座についても資料を見ると、申し込み数に対する参加率が低いように感じるがどのように考えるか。アート講座は、当日、余席がある場合、参加を認めることは考えられないか。

藤田職員 『ロック ザ フィガロ』等については、プロをキャスティングしており、観客を「持っている」演者を起用できたことやアルテリッカの一環として開催できたことが大きい。一方で劇団わが町については、一般の方がキャスティングを見てチケットを買うということにはならないため、現状、差が出ている。劇団わが町については、地元や地元の人をテーマにした劇団であるため、地域の方々に浸透していくようにしていかなければならないと考えている。

関職員 アート講座に関しては、12回全てに出席できる方は少ないため、申込人数と出席人数ではどうしても差が出てしまう。160人程度が限界の狭い会場に合わせ受講人数を設定し、受講者を抽選で絞ったが、広い会場を使用する講座等については、オープン講座として一日単位で聴講できるように対応している。当日参加については、元々抽選により断っている方もいるため、基本的にはお受けしないような対応としている。

- 澤井議長 受講料はいくらか。
- 関職員 全12回で3,000円、オープン講座については1回500円としている。安すぎるため、欠席が増えるという話も出ているほか、有名な方を講師として呼ぶと、その講座だけ見たさに12回分応募する方も中にはおり、対応は検討していきたい。
- 小泉委員 事業の狙いとしては、アート講座は芸術を支えるボランティアを、『ロック ザ フィガロ』や『十二夜』は素晴らしい芸術を見て楽しむ人材を、劇団わが町は演ずる人や地域の情報を発信していくということを目的としているということか。
- 中山課長 個々の事業についてはそのとおりである。また、事業全体の共通としては、やはり芸術を観て楽しむ人を増やし、地域の芸術活動の担い手を増やそうという目的がある。
- 城谷委員 今後の劇団のマネジメントができる人を育てていく必要があるのではないか。助成金が多いうちは良いが、それに寄りかかっていると、自立が出来ず、助成金が減っていったときにいずれ行き詰ってしまう。チケットをいかに売るかを考えられる人材が必要。例えば、市内の市民劇団に案内を出すだけでも切符の売り上げも変わってくる。有名な人の名前で、何もしなくても人が集まる劇団はあるが、地域の市民劇団はそうはいかない。ただ、地域の方々と一緒に盛り上げていくことが市民劇団の良さでもあるので、その良さを活かしていくようにしていければよいと思う。
- 渡辺委員 芸術には、それを理解し、支えるファンが必要。色々なことを狙いすぎると、総花的に終わってしまうことが多く、見て楽しむ人を育てることに特化したほうが良いのではないか。良い目を持った市民が、作家や演者を育てていくことに繋がっていく。生活の中に芸術があるということを広げていくことが大事なのではないか。
- 高田委員 やはり、どういった人材を育成するのか、補助金を出す以上、行政側が、事業の目標をより明確にして、企画を展開してゆく必要があるように思う。
- 野畑委員 アート講座については、サイトウ記念のボランティア代表の方の講座を受けたが、現時点での川崎のボランティアの状況から見ると、相当かけはなれた内容であったように感じた。ただ、最終的な目標地点となるのではないか。
- 劇団わが町は、練習で作りに上げていく際に、劇団員が自分たちで考えながら作りに上げていっており、これは良い試みだと思う。舞台については、個人的には内容は楽しめなかった。ただ、帰りに若い人が「良かった」と言いながら帰っていたのを見たため、感想は人それぞれかと思う。
- 高田委員 劇団の目指す姿があって初めて、そこで今年何をすべきかが生まれてくると思うのだが、劇団の将来、例えば5年後に対しどういう目標を描いているのか。また、公金で立ち上げている劇団として、自己完結で終わってしまうのはまずいと思うが、地域にどういった還元をしていくことを考えているか。

藤田職員 川崎にゆかりのある作品を上演していくのだが、今後は川崎から全国に向けて旅公演を行い、広く発信することが出来ればとも考えている。また、劇団わが町から派生した個々の文化活動も生まれてきており、劇団わが町の公演やコミュニティから派生した活動が地域文化の向上を担っていけるようにしたいと考えている。

澤井議長 それでは、このあたりで次の議題にうつりたい。
いらしていただいた方々、ありがとうございました。

議題2

澤井議長 二つ目の議題、「しあわせを呼ぶコンサート」の提言内容についてだが、事務局から簡単に説明をお願いしたい。

事務局 まず、資料についてだが、議題資料2-1として「文化アセスメント調査・評価シート」を用意させていただいた。これは、事業目的の設定の妥当性や育成支援、市民の参加度など12の視点で事業の評価を記載したものである。また、議題資料2-2として、実際の市長への提言内容となる評価書の叩き台を用意させていただいた。これは、委員からの報告書や会議の際の意見を事務局としてまとめたものであり、内容については、本日議論いただくようお願いしたい。

澤井議長 評価書の提言部分だが、一つ目の提言内容に「全市にこうした取組を広めていく」と記載している。全市に広がっていくのは非常に良いことだと思うが、宮前区の事業にしてもNPO法人やボランティアが長年培った経験のうえに成り立っているものであり、素地のないところでいきなりやろうとしても難しいのではないかな。現状を考えると、可能性のある区等に徐々に広げていくような形にしなければ実現性が低いと考えるが。

野畑委員 他区では似たような事例は怎么样了なっているか。

事務局 福祉施設の訪問など福祉と文化を連動させた事業はいくつかあるが、ここまで大規模なもので同様の事例は市内では例がない。確かに、行政だけでできるものではないため、記載内容については修正させていただく。

高田委員 宮前のこの事例は、地域の団体が作り上げてきた素晴らしいものだと思うが、他の区の間人は知っているのか。社協や施設単独で行うなど、規模の小さなものはよその区でもあるかと思われ、こういった情報を共有していく作業も重要かと思う。

澤井議長 情報発信はぜひ積極的にやっていけばよいと思う。市内への発信はもとより、パラリンピックに向けて市外にも幅広くアピールしていくことは重要だと思う。

城谷委員 歳入は市の助成が全てか。

事務局 現状、市の委託料で全てを賄っている。

野畑委員 ホールの使用料が大きいのか。

事務局 市民館のホールは十万程度でしかない。出演者の謝礼等が一番大きい部分を占

める。

城谷委員 全てを助成金に頼っている事業は非常に不安を感じる。切れたら終わりにしてしまっただけだと思わないと思う。協力券などにより、お金を一定程負担してもらうことにより、見る側にも自分たちが支えているのだという意識が芽生えてくる。

澤井議長 会場での寄附金の受け入れは提言に記載してあるが

城谷委員 寄附ではなく切符でないと駄目だと思う。

渡辺委員 チケットになると、日本人は途端に来なくなる。

澤井議長 会場での寄附ではだめなのか。

城谷委員 方法は、考えるにしても、金銭的な自立や、市民が支えていくという意識を持つ仕組みづくりは必要。

澤井議長 コンサートは、出演者の家族などではなく、コンサート自体を聞きに来ている方はいるのか。

事務局 一部、二部どちらが目当てかはわからないが、かなりの人数が関係者以外の入場者であると聞いている。チケットに関していうと、宮前区は、寄附金は別としてチケット制は考えていないとのことである。チケット収入で歳入を増やすよりも、一人でも多くの方にステージを見ていただき、障がい者への偏見を無くしていくことが大事だと考えて事業を行なっている。

澤井議長 入場料にしてしまうと、寄附ではなく事業の対価になってしまう。皆で支えていくといった福祉的な意識を、入場料としてとるのは違うと思う。

澤井議長 評価書3ページの文化芸術性の欄で、「今後の事業の展開や継続には指導者側を上げていくための仕組みづくりが求められる」とあるが、これは具体的にはどういった内容か。

事務局 提言の2つ目にも記載しているが、小さなNPO法人だけが支えていくには限界もあるし、広がりも生まれにくい。継続していくためには、事業を運営していくための体制を固めていかななくてはならない面がある。

澤井議長 提言部分には音楽大学の協力と記載されているが、大学に限定せず、音楽団体などさまざまな団体と連携していくべきと思われ、幅を広げた表記のほうが良いのではないか。

渡辺委員 もっと目の前にいる人を活用すべき。市内には色々な文化人が住んでいる。

澤井議長 アート人材バンクの話があったが

事務局 7～8年ぐらい前までは行なっていたが、個人情報の問題で最近は情報を集められなくなってしまった。

澤井議長 情報を出したくない人が増えているという話はよく聞く。では、この部分は、大学にこだわらず、地域の幅広い団体や人材を活用していくということ。

澤井議長 他に、意見がないようであれば、このあたりで議事を終了したい。文言等については適宜事務局に連絡してもらえればと思う。

(議事終了)